

科学コミュニケーション—プレゼンテーションスキルのエッセンシャル

(静岡県立大学グローバル COE 准教授 Philip Hawke 著、吉村紀子訳)

今日、英語は科学の分野において国際語である。科学者にとって、自分の研究を広く公開する場合、英語で行うことになる。しかしながら、外国語で口頭発表することは必ずしも容易なことではない。プレゼンテーションを効果的に行うためには、ライティング、スピーキング、リスニングのスキルのみならず、ネイティブスピーカーにとっても難しいとされる論旨の構成力や表現力が必要である。

担当するオーラルプレゼンテーション演習では、2つのセクションに分けて、プレゼンテーションスキルの向上を目指している— (I) 次の5つのスキルについて見られる一般的な問題に関する簡単な講義、(II) 音声上のスキル向上のためのワークショップ。

(I) 講義では、プレゼンテーションスキルの5領域についてそれぞれ2つの助言を行う。

(1) 原稿作成について、誰が聴衆なのかを理解し、アウトラインとサマリーのスライドを効果的に使用すること、(2) スライドのデザインについて、簡潔に、そして理解しやすいように作成すること、(3) 言語コミュニケーションについて、出来るだけ‘平易に’、そして音声や発音に留意すること、(4) 非言語コミュニケーションについて、スライドを読まないこと、アイコンタクトを円滑に行うこと、ポインターを効果的に使用すること、(5) 質疑応答について、サマリースライドを画面に残したまま質問を受け、質問者に対し確認のため質問をリポートすること。

(II) ワークショップでは、非母語話者にとって難しいオーラルコミュニケーション力の向上のため、「発音分析」を実施している。この分析では、次の3つの言語レベルについて適切な発音ができるように簡単なルールを提示している。1) 単語レベルでは、ストレスと発音の間違い、(2) 句レベルでは、名詞句及び形容詞句におけるストレスの位置の違い、(3) 文レベルでは、新旧インフォメーション、対比、強調等に留意すること。なお、これらの音声ルールは具体的な例示をもって導入し、実際のワークショップでは、参加者はペアーを組んでこれらのルールを練習する。ハンドアウトが配布されるので、ワークショップ後も各自練習ができる。